別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	平成２６年度第１回加東市子ども・子育て会議
開催日時	平成２６年６月１９日(木)　午後３時から午後５時まで
開催場所	加東市役所２０２号会議室

議長の氏名　(会長　名須川知子)

出席及び欠席委員の氏名

【出席委員】１３人

名須川知子委員　片山弘文委員　安田さち子委員　陰山直敬委員
中山江津子委員　佐々木正利委員　宮崎久恵委員　野瀬　光委員
西村のぞみ委員　赤坂和美委員　安田末子委員　藤原雅義委員
田畑茂美委員

【欠席委員】３人

藤原哲史委員　田中　勲委員　松本秀憲委員

説明のため出席した者の職氏名

無し

【出席した事務局職員の氏名及びその職名】

教育委員会　教育部長　堀内千稔
学校教育課　主幹　藤原良二
福　祉　部　福祉部長　丸山芳泰
子育て支援課長　山本京子
同副課長　友藤由貴子
同主幹　山本幸平
同主査　高田　篤

【議題、会議結果、会議の経過及び資料名】

１．議題（議事）

（１）「加東市子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る市民アンケート調査の報告について
（２）量の見込みの検討について
（３）「加東市子ども・子育て支援事業計画骨子案」の検討について
（４）就学前教育・保育施設のあり方について

２．会議結果

（１）について
アンケート調査報告書に基づき審議しました。
（２）について
資料①に基づき審議しました。

（３）について
加東市子ども・子育て支援事業計画骨子案に基づき審議しました。
（４）について
資料②－１、２、３に基づき審議しました。

３．会議の経過

（事務局）
・開会挨拶（福祉部長）
・事務局自己紹介
・資料確認

〈議題(1)〉「加東市子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る市民アンケート調査の報告について

事務局から概要説明の後、質疑応答。

（会長）
地域との繋がりが希薄というか、孤立しているお母さんが多いというのがアンケートで出ている。アンケートと実感とであわせて何か気づいたことがあったら、ご意見をいただきたい。何かありますか。

（委員）
就学前、就学後の両方のアンケートで、「子育てについて相談する人がいない、頼る人がいない」という方が１割あるが、これはもっと多いのではないかと感じる。
そういう隠れている部分を、どう掘り起こしていくかをしっかりとやらないといけないのではないか。

〈議題(2)〉量の見込みの検討について

事務局から概要説明の後、質疑応答。

（会長）
この量の見込みというのは、先ほどのアンケート結果を基に、国の手引きに従い、平成２７年度から平成３１年度の各施設・事業の利用者の見込み数を算出したもの。
例えば、幼稚園利用者については、定員３３５人に対して見込みが２３５人で、適当であると思われる。しかし、０歳に関しては、国の算出方法にも問題があるようで、平成２４年度実績が３１人なのに対して、利用見込が１５９人と約５倍の数値が出ている。
数値に関するものでも、補正方法に関するものでも構わないので、ご意見をお願いしたい。

（委員）
数字を見ただけでは、なかなか答えを出すのは難しい。
ただ、特に０歳、１、２歳のあたりについては、少し多過ぎると思う。現状でどれぐらい０歳児が就園しているのか。３１人は少なすぎるのではないか。

（事務局）
この数値はすべて４月１日時点のもの。途中入所を含めればもっと増える。

（委員）
１２月や３月あたりで集計すると、この実績の２倍以上になると思う。そのあたりを考慮しながら、補正をしていく必要がある。それでも、現在の見込み数である１６０人というのは、やはり多いと思う。
また、１、２歳についても途中入所が多いので、実績の２８４人はちょっと少ないと感じる。そうすると、もう少し多めにみていく必要があるのではないかと思う。

（委員）
見込み量の方が実績よりも多くなるというのは理解できるが、２号認定のみ、実績よりも低くなっている。ここだけ実績よりも低く出た要因はあるのか。

（事務局）
国の手引きに従って推計した結果である。
今回、就学前児童のいる１，２００世帯にアンケートを送付して、約６００世帯から回答があった。それを家庭累計に細かく分けて分析したことで、一人一人の意見が大きく傾向を左右してしまい、結果に偏りが出ている部分があると考えられる。
今回提示している数値は、国から示された算出方法そのままであり、事務局でも少ないと感じている。利用する子どもが増えるという想定のもとで、見込み量を補正していく。

（委員）
やはり実績を下回らないように設定していただきたい。
加東市は、それほど出生数も落ち込まないようであるし、今後、ますます転入が増えるよう頑張っていかないといけないので、実績と同程度で推移する程度で良いのではないか。

（事務局）
県のヒアリングでも、「実績よりも下回らないように」との指導を受けているので、そういう方向で検討する。

（委員）
どのアンケートでも無造作に書く方が多いので、アンケートで正しい数字は出ないと思う。アンケートはあくまでも資料をつくる過程と考えて、しっかりと補正するように考えていただきたい。

（委員）
女性の社会進出について国を挙げて進めようとしている中、子育て支援サービスの需要が多くなると考えると、「１号認定については定員以下のため、補正をせずにこの数字を使う」という説明だったが、個人的には少し多いのではないかと感じる。
また、３号認定の０歳児、１、２歳児について、例えばこれを半分にしても、かなりの人数である。これを受け入れるために、保育士の確保をどうするかということを考えたときに、大変な問題と思う。
補正にあたっての分析は、非常に難しいのではないか。

（事務局）
　０歳児の見込み数の補正方法として検討しているのが、アンケートの「育休の取得状況」という項目を利用する方法。国の手引きは、「産休が終わるとすぐに会社に復帰する」という前提のもとに作成されている。そこで、育休の設問を利用して、例えば子どもが１歳になるまで育休を使いたいと回答した方は省いていくという補正方法を検討している。これにより、現在の１５９人からそれなりに減っていくものと考えている。

（委員）
　先ほど、保育士の数が足りなくなるという意見があった。
　現状では、どの保育園も、これ以上子どもを受け入れるのが難しいという、飽和状態にあると言っても過言ではない。
　特に０歳では、子ども３人に対して保育士１人をつけなくてはいけないので、保育士の必要数も非常に多くなっていく。平成２７年度の求人がスタートしているが、早く対応していかないといけない。大変な問題である。

（会長）
　事務局案では、１号認定は補正しないということであったが、幼稚園の１号認定のほうの人数が少し多過ぎるのではというご意見があった。

（事務局）
　１号認定も含めて再精査のうえ、次回会議に提示させていただく。

〈議題(3)〉「加東市子ども・子育て支援事業計画」の構成案について

　資料に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

（会長）
　骨子案ということで、細かい文言についてまだ未定稿とのこと。大きな視点から、「こんな課題が抜けている」とか、「こういった視点を入れたほうがいいのではないか」といったようなご意見を中心にお願いしたい。

（委員）
　子ども・子育て支援事業計画（以下、「支援事業計画」）は、次世代育成支援行動計画（以下、「行動計画」）に付随する計画なのか。下位計画なのか。

（事務局）
　支援事業計画は行動計画とまた別のもの。行動計画は今年度末で期限が終わる。平成２７年度以降、策定するかどうかは自治体の任意となっている。策定する場合は、支援事業計画の中に含んでも構わないということであり、上位・下位というよりも、中に含むことができるものと考えていただきたい。
　本市においては、支援事業計画の策定にあたって、行動計画の中身を含んでいくこととしている。

（委員）
　行動計画では、各分野のさまざまな支援や、関係機関等が掲載されており、子育てを包括的に支援する内容になっていたと思う。今回の骨子案を見ると、少し範囲が狭いかなと感じる。見込み量等の推計も大切であるが、現実に子育てされている方や子育て支援に携わっている方の意見を十分に聞き、真に子育てを支援する計画にしていただきたい。

（会長）
この会議も子育て支援に関わっているものの１つである。率直な意見をいただければありがたい。

（委員）
アンケートで、「子育てで相談できる相手がいない」という方が約１割おられるが、昔からのその地域で住んでいてそういう状況なのか、新興住宅地のようなところでそういう状況なのかというのが気になる。そのあたりを示してもらえれば、問題点が見えてくるのではないかと思う。
また、２７ページで児童館を利用している方が３７．７％に留まっているというデータがあるが、１回でも利用したら統計に入るのか。

（事務局）
アンケート上、１回でも利用すれば数字に入る。

（委員）
少し利用率が少ないような気もするが。

（事務局）
児童館の事業は、大きく分けて「ひろば」と「つどい」の２つある。「ひろば」は誰でも、いつでも行ける。「つどい」は登録制の親子活動で、同じ方が繰り返し行く。利用率は低くみえるが、同じ方が何回も行かれるので、年間で延べ６万人以上が利用している。

（委員）
若いお母さん方は、児童館があるというのを知っているのだろうか。私の家庭では知らなかった。いつごろに建築されたものなのか。

（事務局）
やしろこどものいえは平成１１年。きららは平成１４年度。鯉こいランドは手元に資料がなく今は分からない。東条町の頃からあるので、少なくとも１０年以上前からある。

（委員）
さらに広報活動に取り組んでもらい、利用者が増えればよいと思う。

（委員）
保健センターでの健診ごとに児童館職員が来てＰＲをされているので、健診に来ているお母さんたちは児童館を知っていると思う。
ただ、児童館に積極的に行ける親子ばかりではないと思うので、行けない方をどう救っていくかを考えていかないといけない。

（事務局）
児童館職員が各家庭に、児童館イベントの案内チラシを届けるといったこともしている。

（委員）
子育て支援については、児童館だけでなく、加東市内のすべての幼稚園・保育園がやっている。幼稚園・保育園は、直接保護者にイベントの日程などをお知らせすることが多い。しかし、日程が分かっていながら参加しないという家庭が多くある。そのあたりが今後の大きな課題になるのではないか。

（委員）
物的な子育て支援はたくさんあるが、一時預かりなどの人的な支援がもっと取り上げられれば、より充実したものになるのではないか。

（委員）
昔から住んでいる人も、新興住宅の人も、絆が希薄になってきている。絆づくりもこの会議で取り上げていければと思う。

〈議題（４）〉就学前教育・保育施設のあり方について

（会長）
３月の子ども・子育て会議において、「今後この会議で幼保一体化についても検討を進める」と決定した。とはいえ、私立保育所については経営判断もあり、強制できるものではない。議論については、市として幼・保一体化にどう取り組んでいくか、公立保育所・幼稚園が今後どうあるべきかが中心になる。
そのことについて、事務局から説明を願いたい。

事務局から概要説明の後、質疑応答。

（会長）
幼保一体化については、次世代育成対策地域協議会のときから、ワーキンググループをつくって話し合ってきている。
私の立場から言うと、本当は兵庫教育大学附属幼稚園も認定こども園にしたいが、補助金が出ないため、実現できない。
そこで、子育て支援ルームで０～２歳の子どもを預かり、３歳から附属幼稚園に来てもらうといった形で、幼・保一体化を今秋からスタートさせる予定である。変則的ではあるが、一歩前進だと思っている。
何故そうするかと言うと、親の就労の違いで幼稚園・保育園と分ける必要があるのかということ。保育園でも幼児教育をされているし、幼稚園にももっと養護の部分があっていいと思う。

（委員）
委員の皆さんが、保育と教育、保育所と幼稚園でも構わないが、それぞれどのように感じておられるかお聞きしたい。

（委員）
保育所は遊んでいるというイメージがある。幼稚園は勉強しているというイメージ。認定こども園というのは、今日初めて知った。

（委員）
私は旧滝野町出身で幼稚園がない地域なので、幼稚園も保育所も一緒という感覚しかない。だから、なぜ一体化についてわざわざ議論が必要なのか分からない。一緒にすればよいと思う。

（委員）
今も幼稚園に息子が通っている。保育所と幼稚園は違うものだと思って幼稚園に行かせている。そのために仕事も辞めた。
何が違うかと言われると、やはり保育所は保育をしている。幼稚園は指導要領に基づいて計画を立てて教育をしている。遊びの中で教育をして、保護者もその中で教育を受けている。年上の娘を通わせた２年間も、先生からいろいろ教えていただいて、保護者も成長できたと感じているので、そのあたりが違うのかなと思う。

（委員）
私の孫は、最初は保育所へ行って、小学校へ行く前の１年間だけ幼稚園へ通っていた。保育所は子どもを遊ばせるところ、幼稚園は小学校へ行く準備として勉強をするところと思っていた。

（委員）
親の就労や経済力などの家庭事情に関わらず、すべての子どもが同じように健やかに成長する体制を整えることが、加東市においては大切だと思う。
幼稚園が定員割れしている中、保育所に過重な負担が掛かっているというのは事実だと思うので、幼保一体化して、幼児教育を受けたい人の選択肢として認定こども園があると良いだろう。
幼稚園がなくなることを不安に思われる保護者の声は時々聞くが、その理由についてはあまり聞かない。私が推測するに、「保育所では教育面が少し弱いのではないか」ということだと思うが、保育士の研修体系をしっかり整えて、様々な研修が受けられるような人員配置をして、その上で、認定こども園化に進んでいくというのが一番いいのではないかと思う。

（会長）
幼稚園と保育所の違いというのは、明治時代初期に幼稚園ができたころにつくられてしまったこと。先ほどのご意見にあったように、幼稚園は教育中心、保育所は預かりというイメージがあるかもしれない。
しかし、現在は保育所もしっかりとした教育を提供している。勉強や研修もやっている。次世代育成支援対策地域協議会のワーキンググループで検証した結果、保育所も幼稚園も変わらないということであった。違いは親が働いているか働いていないかというだけであって、中身は変わらない。加東市の保育所は非常にレベルが高い。
一方、幼稚園については、利用者数が非常に減少している。公立幼稚園は税金で運営しているため、このままではいけない。これからの時代に見合った形として、国全体で考えているのが認定こども園。
私が懸念しているのが、加東市で認定こども園に移行するのが、私立園だけであるということ。公立・私立それぞれが切磋琢磨して、より良い保育を提供するのが良いと思う。市にも、前向きに考えていただきたい。

（委員）
「保育所は遊ぶところ」という意見があった。しかし、幼児にとっては遊ぶのが勉強。何をするのが保育なのか、教育なのかという、この原点を見誤ってしまうと大変な幼児教育がなされてしまう。そこを大人がしっかりと把握していないといけない。これは公立も私立も、幼稚園も保育所も関係ない。
子どもは体験や遊びを通して、心を成長させ、感性を磨いていく。「読み・書き・そろばん」だけ出来たらそれでよいという頭でっかちの教育をすると、大人になったときに大変なことになる。そうならないよう、一生懸命考えて計画を立ててやっている。
外からは遊んでいるだけに見えるだろう。しかし、実際は計画を立てて、さまざまな検

討を加えながら進めている。幼稚園も保育所も、同じように考えている。そういうところを理解いただければありがたい。

（会長）
さまざまなご意見、ありがとうございました。
この件については、今後もここでいろいろな意見をいただきながら、よい方向に持っていければと思っているので、よろしくお願いします。

・事務連絡（次回会議の開催時期・内容及び委員報酬について）
・閉会挨拶（教育部長）
・閉会

４．配付資料
〈事前配布〉
・加東市子ども・子育て支援事業計画骨子案
・アンケート調査報告書（就学前児童保護者用・小学生保護者用）
〈当日配付〉
・ニーズ量（推計結果）と見込み量の検討方針について（資料①）
・保育所・幼稚園の現状と今後の課題（資料②－１）
・就学前教育・保育に関する将来の見込みについて（資料②－２）
・加東市の保育所・幼稚園（資料②－３）

平成２６年 9 月 1 日

会 長 名須川 知子